

あ と が き

昭和52年7月25日の地震予知連絡会東海部会における中心的話題は、「地形・地質・歴史地震からみた大地震の長期予想」というものであった。

この討論は、東海部会の事務局をつとめられる佐藤裕委員から、地質屋としての私に、「もしわれわれが、1853年または1922年に、現在のような地形・地質・測地・歴史地震のデータを持っていたら、(微小地震など前兆異常検出のための観測データはないとして)果して安政東海地震や大正関東地震を予言できたろうか?」という、はなはだ挑発的な命題を与えられたことに基づいている。問題提起の真意は、本誌の佐藤氏自身のコメントを参照されたい。

本資料は、当日の出席者に、当日提供された資料および討論の内容およびこれに関するコメントを、あらためて投稿して貰ったものである。瀬野徹三氏だけは、出席されなかったが、自己の研究にかかわる部分についてのコメントをいただいた。

本特集号は、果して前述の命題に答えられているだろうか? 世話役であった私の印象を云わせて戴けるならば、半分ぐらいは答えられた、答えられないのは何が不足しているせいかということもわかった、そして、意見の不一致はかなりあるが、あと1回の討論で大部分はなくなるのではないか、というものである。

なお、本資料は、東海部会の報告という性格のものではなく、地震予知連絡会内部で検討して頂くために作られたものであることをお断りしておきたい。(垣見俊弘記)